

第2回「淡路島総合観光戦略策定会議」議事要旨

日 時：令和4年9月15日（木）13：30～15：30

場 所：洲本商工会議所1階 大ホールA

出席者：宗田委員、相野委員、琴井谷委員、赤穂委員、津田委員、真木委員、木崎委員（代理：中川氏）、正木委員、鎌田委員、井壺委員、田中委員（オンライン）、川越委員、山下孝委員、守本委員、山下直委員、勝見委員、江崎委員（代理：石上氏）

議事の要旨

事務局から淡路島総合観光戦略（骨格案）について説明し、座長、委員による意見交換を実施

1、【ビジョン】【基本理念】【推進戦略】について

【座長】

- ・インバウンド対策は国・県・3市、それぞれで実施するレベルが異なる。淡路地域でできることが議論の中心となるが、今後、県・国への要請も踏まえて島内の合意形成を図りたい。国内・インバウンドについてであるが、ほとんど客層に差はない。その客層の中で「上」を狙うか「下」を狙うか。観光マーケティングが重要。
- ・SDGsについては、「普及」ではなく、「推進」と記載した方がよい。

【委員】

- ・SDGsについては「普及」ではなく、「推進」と記載することに同意。加えてSDGsに「配慮」ではなく「踏まえる」と表記すべき。
- ・目指すべき観光の姿がより明確になってきた。SDGsや環境への配慮が全体の前提になっているところも理解できる。

【座長】

- ・「サステナビリティにつながる」コンテンツの開発については、「SDGsにつながる」と記載したほうが良い。
- ・「食」を大きなテーマとして、万博のテーマ「いのち輝く未来社会のデザイン」に合わせて、さらに推進していく。
- ・万博の兵庫県の展示はどういう状況か。せっかくなので、淡路島の「食」もしっかりとPRし、万博会場との海上アクセス整備とあわせて要請していただきたい。

【委員】

- ・SDGs が文章の枕言葉になっている感じがある。具体的に SDGs の何を推進していくのか。

【座長】

- ・淡路島は御食国であり、「食」については、農業・水産業の維持はかせない。まずは観光から SDGs を進めていき、周辺産業に広げていく。SDGs は環境だけでなく、根本は貧困の撲滅など公平な社会に向けた目標がある。淡路島は自然に恵まれた場所なので、SDGs はぜひ戦略目標として掲げていただきたい。

【委員】

- ・高所得者層の 1 日の利用金額の基準数値等はあるか。また、同様の内容で先進地として目指すべき地域はあるか。

【座長】

- ・「グリーンディステネーション」だと豊岡。他には京都・横浜、湯布院。
- ・淡路島は大きな目標として、消費額や環境面で似通ったハワイを目指しても良い。

【委員】

- ・南あわじ市は「食」を売りにしており、サンセバスチャンを目指している。

【委員】

- ・推進体制として、行政・観光協会のメンバーも代わっていく中で、予算と推進役の持続可能な体制づくりが必要。

【委員】

- ・SDGs の表現方法は大切。お客様にわかりやすく伝えることも大切（例：食料自給率 100%など）。わかりやすいキーワードなどを使って、SDGs の達成度などもしっかり伝えたい。1 行 2 行の文章で伝わらないものは、QR コードで読み取ってもらえばよい。

【座長】

- ・KPI の指標である「域内調達率」が観光施設や飲食店で確認出来る状態になればよい。

【委員】

- ・SDGsの目標には、「つくる責任」「海の豊かさをまもろう」など、いろいろな分野がある。それを踏まえた取り組みとしていくことが良いのではないか。

【座長】

- ・SDGsの17の指標には「公平」「福祉」「教育」などがあり、観光客へのアピールとして活用すればよい。観光にとっては「食べること」「買うこと」が大切。飲食店で「陸・海の豊かさ」をどう守っているかは観光客の関心が高く、教育にもつながる。

【委員】

- ・飲食店の立場として、素材を無駄なく使う、とりすぎない（小さなものは海に返す）などの取組を行っている。ぶどうの切った枝を燻製にするなど「もの」を無駄にしないことが自分たちの取り組めるSDGsだと考えている。新芽についても残さない芽も摘んだ後に活用するなど、できたものを「いのち」としていただくので、大切にすることがSDGsだと考える。

【座長】

- ・生産者や料理人の物語を「いのち輝く」などテーマと絡めて、淡路島のSDGsとしてQRコードなどですぐに説明出来る状態にできればよい。

【委員】

- ・淡路青年会議所（JC）が県知事に18番目のゴールとして、「ひょうご各地の特色をいかそう！」を提案した。大阪ベイエリアの開発なども関わってくるが、淡路島では海事観光を活かすのが良い。ターゲットはインバウンドで、その中でも、アジアのハイクラス（お金持ちというだけでなく、知識のハイクラス）、この戦略の方向性で問題ない。

【座長】

- ・京都では中国の30代女性がどんな雑誌を読んでいるかを注目している。日本での食事についても和食ではなく、地元の食材を使っており日本人にも人気があるイタリアンやフレンチの店を探す場合がある。こういったことを淡路島も取り組んで新たなターゲットを掘り起こすのも良いと思う。

【委員】

- ・原案のビジョン・基本理念に至った経緯を聞きたい。

【事務局】

- ・そもそもいのちは何を指しているのか、というところから考えた。生命もあり、無形の文化などもいのち。万物に宿っているものが、それぞれの個性として輝けると良いと考えた。

【座長】

- ・SDGs に隠れているが戦略に記載されている「島外資本」「DX」なども大切。
- ・事業者に対して、「DX」をどう普及していくか考える必要がある。人材のリカレント教育などにも取り組む必要がある。

【委員】

- ・基本戦略に SDGs が入っていることは、大きな未来への戦略の全てがこうなってくると思っている。誘客・送客の観点から考えると、より分かりやすい事項が必要。分かりやすいのは環境の観点。例えば、自転車イベントをやっても参加者は車で来る。

【座長】

- ・前回、サイクリングの話で道路整備が課題に出されていたが。

【事務局】

- ・道路整備は、道路の使われ方の状況や周辺の施設の状況などいろいろな事情や意見を踏まえながら進めているが、予算だけでなく用地を提供いただかないと前に進まない。ここが大きな課題。地元の協力がとても大切。

【座長】

- ・道路整備の予算の 7 割は用地取得費用。地元と一緒につくっていかないといけない。

【委員】

- ・SDGs でバスも規制強化になっている。最近の水素バスの話もあるが、1 台 1 億円。日本・世界がその方向に進まないと、車両価格は下がらない。水素ステーションなどインフラ整備も必要。「バスの接続」も記載されているが、利用者が増えないと難しい。

【座長】

- ・インバウンドが増えて京都市交通局の経営が良くなったという話がある。インバウンドの公共交通利用が促進できると変わってくると考える。淡路には公共交通で来ていただくことを戦略として取り組みたい。

【委員】

- ・二酸化炭素排出量を減らす視点で、淡路にはマイカーではなくバスを利用して来ていただくことを戦略として考えることが重要ではないか。

【委員】

- ・以前は10航路以上あったが、橋が四国・本州と開通してから定期航路は2航路のみ（離島の沼島、岩屋と明石）が運航している。それに加えて観光遊覧船がある。定期航路をやらない理由は採算の問題、天候の影響を受けやすいというリスクが課題。島らしいモビリティ・ツールである港を多様化していきたい。定員500人以上の遊覧船は全国でも5、6隻程度しかないが、そのうちの3隻が淡路島で運航している。大きな船での優位性をもっと活かしていきたい。観光の表裏一体となるのが安全性の問題。「交通」だけでなく「食」も含めて、戦略のどこかに「安全な観光」を記載してほしい。南海トラフによる災害で橋が通行出来なくなった場合、島民だけでなく観光客も島に閉じ込められる状態となる。その際の移動手段は船だけになる可能性がある。観光面・災害面それぞれを活かせる港の整備を要望する。

【座長】

- ・島・海がある淡路島の魅力を引き出すことは重要なので、「船」「港」のことは戦略に盛り込んでほしい。「船」と「食」を組み合わせた取組も良い。

【委員】

- ・SDGsを標榜して取り組むことが顧客満足度にもつながると考える。インバウンドについては、「この戦略の中心として追いかける」というよりは「広く首都圏等遠隔地からの誘客」に取り組む中でインバウンドにもつながっていくという姿勢でよいか皆さんの認識を再確認させてもらいたい。

【座長】

- ・インバウンドは招くものではなく、押し寄せてくるもの。質の良いインバウンドをどう捉えるかが大切。これがインバウンド対策。良い観光客を招きつつ、徐々に個人客に来てもらう政策にシフトしていく。これを共通認識としたい。

【委員】

- ・推進戦略3に「景観について」の記載がある。洲本市では既存の観光資源でも三熊山の洲本城跡に力を入れており、石垣を見せるために樹木の伐採を行っている。市街地から石垣が見えるように始めたが、お城から市街地が見下ろせる景色に人気がある。樹木の伐採については、環境省との協議が必要であり、維持管理の範疇であれば問題ないが、景観のためとなると自由に伐採が出来ない状況。洲本城の周りは整備する際に文化庁や兵庫県との協議が必要な部分がある。

【委員】

- ・公共交通の関係者や旅行業の関係者と話をした際に、富裕層の方が求めることに「美味しいものを食べる」ということがあるが、最近の傾向として、「人に会いに行く」ということも意識されているとお聞きした。推進戦略1の「物語化」につながるもので、人材育成やガイドにより安心して旅行していただけるということが大切。環境保全に配慮した取組は淡路島が目指していくべきだと思うし、選ばれる観光地を目指すことや3市の課題である二次交通、滞在時間の長時間化などの観点を見ると、中身の濃い観光戦略だと感じる。

【委員】

- ・観光戦略なので観光客に淡路島をどう思ってもらうのかが大切だと思う。観光客から見たSDGsは「泊まる」、「食べる」、「買う」、「遊ぶ」。それに関連して淡路島で取り組むSDGsをわかりやすく説明する必要がある。宿泊施設だと未利用魚、低利用魚を活用した宿泊プランの造成、アメニティやバイキングもSDGsにつながる。「食」でいうと、お刺身に加えてあら汁を味噌汁として提供することもSDGsの一つ。美菜恋来屋では、未利用魚の干し物が販売されている。観光客の目につく状態でSDGsの取組を見せていく。「遊ぶ」では、淡路島になるとオレンジの生産者が高齢化しているおり、収穫が大変なため、木から落ちた果実を収穫すること体験として提供し、捨てずに使ってもらうことがSDGsにつながる。観光という目線でのSDGsを推進していくことが分かりやすい。
- ・インバウンドを含む首都圏等遠方からの誘客について、鳴門市では関東からの女性客が多く、その目的地はほぼ大塚美術館。「キラーコンテンツ」があれば誘客が出来るので、鳴門市と連携することも良いし、淡路島全体でここにしかない唯一無二の「キラーコンテンツ」を決めるべき。うずしおクルーズ、伊弉諾神宮、人形浄瑠璃、花さじきなど色々あるが、絞ってどう見せていくかが今後のポイントになると思う。

【座長】

- ・温泉旅館で女性の一人客が約3割を超えており、これが標準となっている。最近では、女性のソロキャンプも増えている。女性客を4割5割獲得出来ていない観光地は時代遅れとなっている。

2、【推進体制】について

【委員】

- ・KPIとして調査された各データをどう反映・活用するのか。それぞれ事業者が情報・データを活用することが大切。推進体制の中で具体的にどういう方向でやっていくのか記載したほうが良い。データ解析や事業者との連携方法などをどうやっていくかなど「DX化」は必ず必要な事項なので、やっていかなければいけないが、どういった体制で実施するのか。

【座長】

- ・今回の策定会議のような集まり（商工会や各事業者、行政等）が年2回ぐらい開催され、土木や農林も交えて、KPIの点検や環境の変化を受けて、議論する機会があれば推進体制としては良いと思う。

【事務局】

- ・戦略会議が管理・評価をしていく。その結果は出来る限り、多くの団体に情報共有をしていきたい。

【座長】

- ・今は細かくKPIを設定して、それぞれの進行具合を見つつ、どう改善策を打つか、現場の声を聞きながら推進することが必要。戦略会議に報告するための内容を各所の意見を聞いて議論することが必要。

3、【KPI】について

【座長】

- ・域内調達率だけでなく、SDGsのことを訴える必要があるという話もあった。
- ・宿泊者の発地別比率の他にもインバウンドの割合も丁寧に指標を見ていく必要がある。
- ・島民一人当たりの所得を着実に上げていくこと、所得とどんな観光客が来ているかの関係性もとても重要。
- ・ハワイが良いのは島民が豊か。世界で一番、外国人に対してオープン。元々のハワイ系の住民は2割もいない。淡路島も外から入ってきた人も多く、漁港などもあり、観光客の受け入れに寛容な場所だと認識している。

4、【まとめ】について

【事務局】

- ・今回の骨子を以下の通り修正。
取り巻く環境の変化における「SDGsの普及」を「SDGsの推進」に修正。
ビジョン・基本理念の考え方における「SDDsに配慮」を「SDGsを踏まえて」に修正。
推進戦略1（商品戦略①:物語化）に「港を拠点としたにぎわいづくりの推進」を追記